

合併して三つの市になった島原半島

(4) 島原市・雲仙市・南島原市

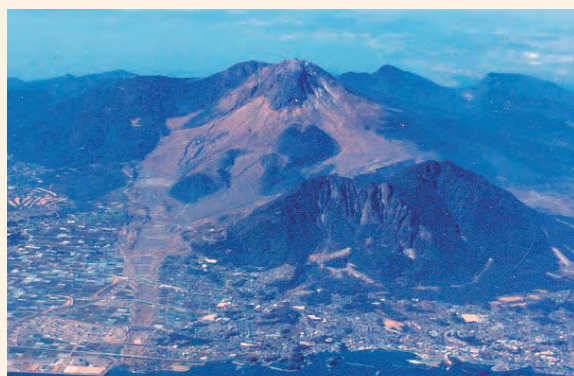
ア 雲仙のふもとに広がる島原半島

島原半島の中央部に、
 普賢岳を中心とする雲仙
 の山々がそびえている。
 かつてこの山々のたび重
 なる噴火によって、火山
 噴出物が海岸線に向かっ



噴火前(平成2年8月)

(提供:島原市)



噴火後(平成15年2月)

(提供:島原市)

てたい積し、ゆるやかな
 なすそ野を形づくって
 いる。

1990(平成2)年11
 月17日、およそ200年
 ぶりに雲仙普賢岳が噴
 煙を上げ、その後当時
 の島原市や深江町をは
 じめ島原半島一帯に大
 きな被害をもたらした
 (死者44名(行方不明
 者3名を含む)、負傷者
 11名、被害総額2,299
 億4,197万円)。1996
 (平成8)年6月に、噴
 火活動の終息宣言が出

され、1997(平成9)年から5か年計画で、行政と民間が一帯と
 なった「がまだす計画」(島原地域再生行動計画)が復興に向け
 て進められた。

2005(平成17)年10月には、国見町、瑞穂町、吾妻町、愛野
 町、千々石町、小浜町、南串山町が合併して雲仙市が、2006(平
 成18)年1月には、島原市と有明町が合併して新しい島原市が、同
 年3月には加津佐町、口之津町、南有馬町、北有馬町、西有家町、
 有家町、布津町、深江町が合併して南島原市が誕生した。

みんなで考えてみよう!

島原市・雲仙市・南島原
 市にはどのような特色
 があるのだろうか?

MEMO

イ 豊かな観光資源

1637(寛永14)年に、島原・天草一揆(島原の乱)が起きた。原城(南島原市南有馬町)に立てこもって滅ぼされた天草(益田)四郎時貞を総大将とする一揆軍3万7千人の悲劇を物語る資料は、現地のほか、島原城にも展示されている。



島原城 (提供:長崎県観光連盟)

島原市は、「有明海にひらく湧水あふれる火山と歴史の田園都市」をキャッチフレーズに観光の振興に力を入れている。島原城や武家屋敷跡は市のシンボルであり、おとずれる人も多い。

市内の60か所余りには、わき水があり、1日の水量は、長崎市の1日の上水道給水量よりも多い。水質がよく、環境省選定の「名水百選」にも選ばれた。道路わきの水路に鯉が泳ぐまちとしても有名である。

島原半島には、海と山の温泉をもつ雲仙市、美しい砂浜やイルカウォッチングが楽しめる南島原市などの観光地もある。

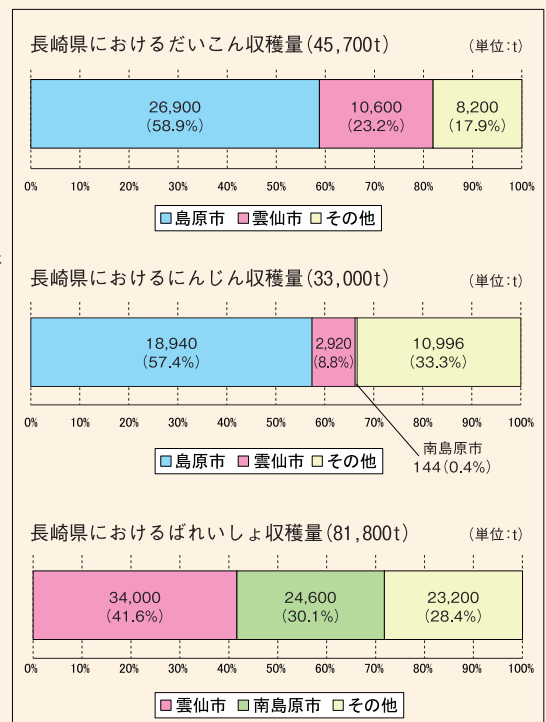
ウ 県内最大の農業地帯

島原半島は、温暖な気候、雲仙がもたらす豊富な水、よく肥えた土地など自然にめぐまれ、県内最大の農業地帯となっており、じゃがいも、レタス、だいこん、はくさい、いちご、トマトなどが栽培されている。

長崎県のじゃがいもは、全国3位の産出額であるが、その約7割は島原半島産であることから、島原半島は「じゃがいも王国」と呼ばれている。

島原半島は、畜産も大変盛んである。肉用牛、乳用牛、豚、にわとりなどが多く飼育されており、島原半島の畜産産出額は、県全体の約45%をしめている。

みんなで考えてみよう!
島原半島ではどのような農業が行われているだろう?



令和4年度作物統計調査より



雲仙グリーンロード(総延長64km)

輸送したりすることに役立っている。このような広域農道が半島をほぼ一周することにより、農産物の流通がさらに図られ、県内をはじめ、北九州や関西方面への食料供給地となっている。

また、南島原市は、島原手延べそうめんの特産地として全国的に知られており、品質向上のための技能検定試験をおこない、後継者育成に力をいれている。

(5) 佐世保市とその周辺

ア 佐世保市の自然

佐世保市は、人口233,598人(令和5年10月)の県北部の中心都市である。

佐世保川や相浦川などの川沿いや海岸部以外は、平地が少ないため、山の斜面にまで住宅が広がっている。また、海岸線は複雑に入り組み、九十九島と呼ばれる小さな島々があって、五島列島や平戸とともに1955(昭和30)年に西海国立公園に指定された。

イ 佐世保市の発展

佐世保は、明治時代の初めまで小さな漁村であったが、1886(明治19)年に日本海軍の軍港となり、造船所も置かれ急速に発展した。1902(明治35)年には、村から市となり、周辺の町や村を合併しながら市域が広がっていった。



佐世保市とその周辺

エ 発展する産業

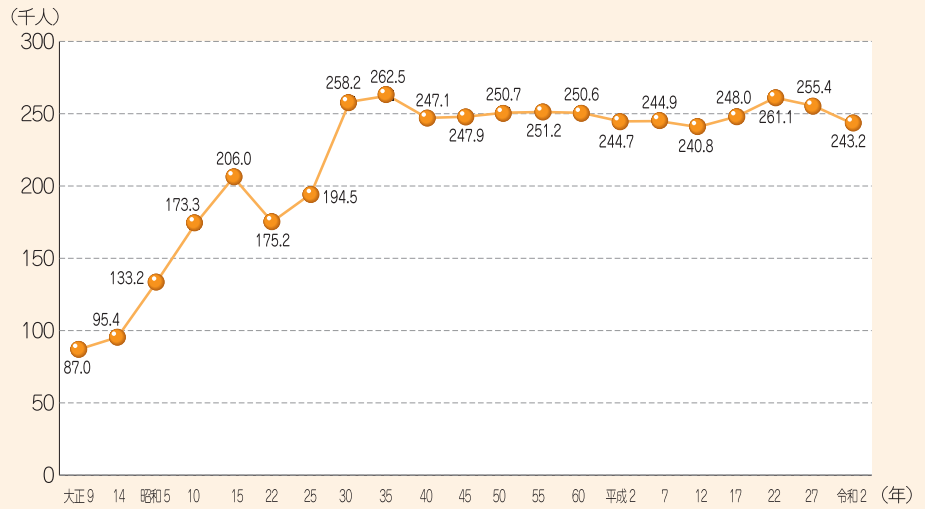
2000(平成12)年2月、待望の広域農道「雲仙グリーンロード」が着工から28年かけて全線開通した。この道路は、農作業をしやすくしたり、農産物を

MEMO

みんなで考えてみよう!

佐世保市とその周辺にはどのような特色があるのだろうか。

MEMO



佐世保市の人口推移(国勢調査)

みんなで考えてみよう!

佐世保市ではどのような産業がさかんに行われているだろう?

近年でも、2005(平成17)年4月に吉井町及び世知原町と、2006(平成18)年3月に小佐々町及び宇久町と、さらに2010(平成22)年3月に江迎町及び鹿町町と合併し、新しい佐世保市が誕生した。

また、造船業が重要な産業として発達し、アメリカ海軍と海上自衛隊の施設や住宅なども多い。

ウ 県北経済の中心佐世保市

市の中心部には、連続したものとしては日本一の長さを誇るアーケード街があり、多くの商店やデパートが約1kmにわたって立ち並び、買い物客でにぎわっている。この商店街は、四ヶ町やサンプラザからなり、市内外の広い地域から買い物客を集めている。



さるくシティ403アーケード

(©SASEBO)

このように佐世保市は商業が盛んで、働く人の約77.2%は、第3次産業(商業,サービス業など)に従事している。(R2国勢調査)

造船業は、戦後の佐世保市を発展させる原動力となった。佐世保重工業(SSK)の広い工場には、クレーンが立ち並び、



佐世保重工業

(©SASEBO)

MEMO

大きなドックがある。また、周辺にはSSKに関連する工場や会社も多い。

観光産業では、西海橋^{さいかいばし}や九十九島などの代表的な観光地に、1992(平成4)年3月、市の南部に建設された「ハウステンボス」が加わった。

近年^{こうがい}、郊外には新たに住宅地が次々につくられており、市内へ通勤、通学する人も多い。また、西九州自動車道の整備も進み、県外とのつながりも強まってきている。

エ 東彼杵郡のようす

東彼杵郡は、佐世保市と大村市の中間に位置し、東彼杵町^{ひがしそのぎ}、川棚町^{かわたな}、波佐見町^{はさみ}の3町からなり、人口は34,166人(令和5年10月)である。

東彼杵町は、江戸時代から鯨の水揚げ地として活気があったが、現在、町を特色づけるのは茶の生産である。茶畑は日当たりの良い丘の斜面につくられ、生産量は県全体の約65%をしめている。

平成29年度から4年連続で全国茶品評会審査会において、「そのぎ茶」が日本一に輝いた。

川棚町では、太平洋戦争中に置かれていた軍の工場跡地^{あとち}を中心に、耐火レンガ^{たいか}、縫製^{ほうせい}、食肉などの工場が進出して町の主な産業となっている。また、大村湾に面した大崎半島にはレジャー施設^{しせつ}もあり観光にも力が入れている。



東彼杵町の茶畑

(提供:長崎県観光連盟)

波佐見町^{はさみ}は、約400年の歴史をもつ焼物の町^{やきもの}として全国にその名を知られ、町内の焼物工場において、町民の多くが陶磁器産業に従事している。現在もレンガ造りの煙突群が、陶芸の里としてのたたずまいを残し、個性的な産業景観を生み出している。また、2008(平成20)年に長崎キャノン株式会社が設立され、2010(平成22)年3月からデジタルカメラの製造がはじまっている。



レンガ造りの煙突が立ち並ぶ波佐見町(提供:長崎県観光連盟)